

「地域連携型学校防災体制等構築推進事業」における実践研究報告書

宮城県涌谷高等学校

I 学校所在地域の災害特性及び地域連携に係る現状等

- ・普通科 12 学級，生徒 235 名，教職員 46 名（2023 年 3 月 10 日現在）
- ・学校は，江合川流域に位置し，涌谷町防災マップでは校庭の一部が浸水想定区域に位置している。
- ・学校は，町の避難場所および避難所としても指定されているが，要配慮者利用施設としては指定されていない。
- ・平成 27 年 9 月関東東北豪雨と令和元年東日本台風では，校地には浸水がなかったものの校区は内水氾濫により被害を受けた。それぞれ地域住民 199 名，118 名が体育館に避難した。令和 4 年 7 月大雨では，内水氾濫と出来川の外水氾濫が起きたが，避難場所としては開設されなかった。
- ・令和 3 年度までは地域と合同の避難訓練は実施しておらず，今後は，町防災担当部局と地域の自主防災組織と連携した災害時の対応の共有化をより図っていく必要がある。

II 取組状況

1 地域や関係機関等と連携した学校防災マニュアルの見直し及び避難訓練の実施

涌谷町総合防災訓練への参加

目的 ①水害時における避難から避難所開設までの流れを理解し，主体的に地域防災に貢献しようとする態度を養う。②防災に役立つ知識や技能について学び，災害発生時に命を守る判断・行動ができる力を養う。

期日 2022 年 11 月 5 日 **会場** 本校体育館 **主催** 涌谷町総務課防災交通班

想定 強い勢力を持った大型台風が接近。気象庁は県内の市町村に対し大雨警報・洪水警報を発表。涌谷町でも江合川が増水し堤防の損傷及び決壊が予想される。

参加者 有志生徒 35 名，教職員 10 名，涌谷町役場，町内該当地区地域住民（自主防災組織），防災士会みやぎ，遠田消防署，遠田警察署，臨時災害 FM 放送局 等 計 177 名

内容 前半は，避難者誘導訓練，避難所開設訓練，臨時災害 FM 放送局による被害状況伝達訓練を行った。後半は，防災士会みやぎによる涌谷町の過去の災害に関する講話，段ボールベッド設置訓練，応急救護訓練，NTT 災害伝言ダイヤル体験を行った。有志で参加した生徒 35 名うち 31 名が，2022 年 10 月 2 日に美里町中央コミュニティセンターで行われた養成講習会に自主的に参加し「宮城県防災指導員」に認定された生徒。全体を通して，町役場や地域の住民，自主防災組織等と協働的に訓練に参加し，防災における地域との関わり大切さや実践的な防災について理解を深めた。町主催の訓練に参加するにあたり，町防災担当部局，学校防災アドバイザー，本校防災担当で年度始めより 3 回協議した。



2 地域と連携した災害特性を共有するワークショップ等の実施

(1) 災害図上訓練 DIG (Disaster Imagination Game)

目的 災害図上訓練 DIG を通して、地域住民と共に学校周辺の災害特性への理解を深める。

期日 2022年4月21日 会場 本校体育館 扱い 総合的な探究の時間

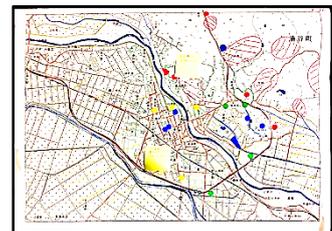
講師 吉目木克彦氏 (防災士・元涌谷消防署長)

参加者 1・2 学年生徒、教職員、町総務課防災交通班 2 名、町内自主防災組織 14 名

内容 災害図上訓練 DIG とは、参加者が進行役から出されるテーマに沿って地図にかき込みながら、ゲーム感覚で地域の防災対策や災害時の対応を考える訓練。前半は、講師の方から涌谷町の過去の災害についてお話ししていただいた。後半は、生徒はグループに分かれ、涌谷町の防災マップに基づいて、白地図に地域の防災拠点や過去に被害のあった危険箇所等のかき込みをした。地域住民からの助言を受けながら、協働的かつ主体的に地域の強みや災害特性について理解を深めることができた。



白地図にかき込み



(2) 避難所運営ワークショップ

目的 東日本大震災時の避難所運営の実際を知り、災害時の支援者としての役割を自覚する。

期日 2022年6月10日 会場 本校体育館 扱い 特別活動

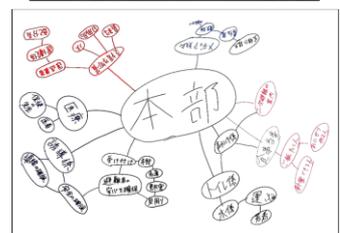
講師 齋藤幸男氏 (防災士・元石巻西高等学校長)

参加者 全校生徒、教職員、町総務課防災交通班 2 名、町内自主防災組織 12 名

内容 本校が町の避難場所および避難所に指定されており、実際に本校が過去の災害で避難場所となっていることを踏まえ、みやぎ県民防災の日に合わせて実施。前半は、講師の方から実際の避難所運営の体験談を当時の記録映像や写真を使いながら講演していただいた。後半は、生徒・教職員・地域住民がそれぞれグループに分かれ、発災後 3 日間の避難所運営組織図の作成を通して、自分たちにできることを考えた。発災直後の混乱期は、縦割りの組織ではなく、役割がクモの巣状につながる「ウェビング」の方が有効だということを知った。



「ウェビング」の説明



(3) 災害対応ワークショップ

目的 発災後の全体像を把握し、支援者としての役割を自覚しながら、課題と解決策を考える。

期日 2022年9月29日 会場 本校体育館 扱い 総合的な探究の時間

講師 齋藤幸男氏 (防災士・元石巻西高等学校長)

参加者 全校生徒、教職員、町総務課防災交通班 1 名、町内自主防災組織 11 名

内容 避難所運営、仮設住宅、支援物資、ボランティア、学校支援、生活再建、がれき処理、地域医療の 8 つの役割に分かれ、過去の災害について調べ、課題とその対応策を考えた。



課題/対応策を考える

がれき処理 2年B班	
課題	対応策
・お金が足りないから	→ 雇用して作業させる
・がれき搬出	→ 災害復旧業者と連携
・がれき処理は場所が広い	→ 仮設の仮設 場を借りる
・がれきの分別	→ 分別だけにする
・がれきの費用は高い	→ 分別だけにする、被災者への支援
・分別が難しい	→ 費用を削減する
・がれき処理	→ 費用を削減する

(4) 「宮城県防災指導員」養成講習会(涌谷町・美里町合同開催)への参加

目的 地域住民と共に防災に関する知識・技能を学び、発災時に命を守る判断力・行動力を養う。

期日 2022年10月2日 会場 美里町中央コミュニティセンター

主催 宮城県復興・危機管理部防災推進課地域防災班 参加者 有志生徒31名、地域住民

内容 「震災対策推進条例」(平成21年4月に制定)に基づいて知事が認定する地域防災リーダー「宮城県防災指導員」に参加生徒31名全員が認定された。前半は、災害全般に関する基礎知識、震災の教訓、自主防災組織の役割等についての講義を受講した。後半は、DIG、HUG(避難所運営ゲーム)を通して、涌谷町・美里町の災害特性を把握し、避難所の出来事や避難者対応を模擬体験した。参加した地域住民とともに個人や地域でできる防災を当事者として考えた。また、認定された生徒のほとんどが11月の町総合防災訓練にも参加した。



地域住民とともに考える



31名全員が認定される

3 教職員の災害対応力を養成する校内研修等の実施

教職員防災研修

目的 災害発生時の学校としての対応を涌谷町と連携しながら確認し理解を深める。

期日 2022年9月29日 会場 本校体育館ほか

講師 涌谷町総務課防災交通班 参加者 全教職員

内容 学校防災マニュアルの読み合わせ、町防災担当部局による町の災害リスクの説明、校内フィールドワークでの防災備蓄品等の確認を行い、教職員は災害時の対応力の向上に努めた。



避難場所となった時の説明



防災備蓄品の確認

4 被災地訪問等を取り入れた児童生徒の防災意識を高める防災教育の実施

防災学習のテーマを「当事者意識(防災の「自分事」化)」とし、「災害が起こる前・災害が起きたときに自分に何ができるか考え、行動に移す」ことを目標に、防災学習を実施した。生徒が各学習を振り返り「自分にできる防災」を考える「防災学習振り返りシート」(別紙1)を活用した。1枚ポートフォリオ評価(OPPA)としたことで、1年間の防災学習を通して自分の意識の変化を可視化できるよう工夫した。



防災学習振り返りシート

(1) 被災地訪問学習

目的 ①東日本大震災の被災地を訪問し発災当時の事実を知る。②災害と向き合い、命の尊さや自他の命を守ることにについて考え、防災を当事者として捉え自分の生き方に生かす。

期日 2022年12月7日、8日

会場 石巻市震災遺構大川小学校、シーパルピア女川

扱い 特別活動 講師 佐藤敏郎氏(大川伝承の会)

参加者 1・3学年生徒、教職員

内容 震災当時の状況・教訓を学び、命の大切さについて考えを深めることができた。



佐藤氏による案内

(2) 防災タイムライン作成

- 目的 風水害・土砂災害時に「いつ」「誰が」「何をするか」当事者として命を守る行動を考える。
- 期日 2022年7月21日 会場 本校各教室
- 扱い 総合的な探究の時間 参加者 全校生徒、教職員
- 内容 居住地のハザードマップに基づき、事前の避難行動計画を作成した。みやぎ防災ジュニアリーダーで宮城県防災指導員の生徒が、アドバイザーとして各教室をまわり助言を行った。



(3) 校内防災訓練

- ①春季防災訓練 授業中、地震・火災想定で4月に実施した(実施時期を年度始めに変更)。
- ②秋季防災訓練 放課後(部活動中・教員不在)、地震想定で11月に実施した。

(4) 地域ボランティア活動 学校と地域の関係構築のきっかけとして参加。

- ①「青い鯉のぼりプロジェクト」 4月、有志生徒11名参加
- ②「涌谷デントコーン迷路」スタッフ 7月、有志生徒14名参加
- ③「おらほのベンチ」作製 8月、有志生徒11名参加



(5) 校外への活動発表

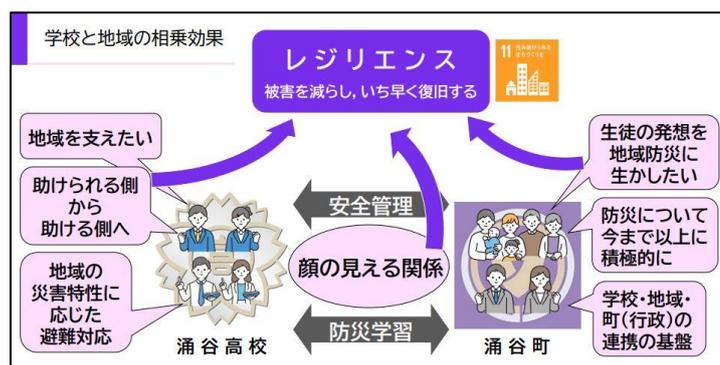
- ①青森県むつ市高校生防災交流会 8月、代表生徒5名参加
- ②わくや地域福祉フォーラム 11月、代表生徒4名参加
- ③みやぎ防災ジュニアリーダー養成研修会 12月、代表生徒2名参加
- ④三重県高校生防災交流会 1月、代表生徒9名参加
- ⑤全国防災ジュニアリーダー育成合宿 1月、代表生徒1名参加



Ⅲ 取組を通じた成果と課題

(1) 成果

- 「地域を支えたい」「助けられる側から助ける側へ」という想いを持つ地域防災に貢献しようとする生徒の姿が見られた。
- 地域の災害特性に応じた学校としての対応を考え、教職員の防災意識も向上した。
- 地域住民は、生徒の姿を見て、より積極的に地域防災に取り組むようになった。
- 安全管理・防災学習等を通して、学校と地域お互いに顔の見える関係ができ、連携の基盤が構築された。学校と地域間に相乗効果が生まれ、地域の「レジリエンス」につながると考えられる。
- 令和4年度ぼうさい甲子園において、「URレジリエンス賞」を受賞した。



(2) 課題

- 本校が避難所となった際の対応等について、今後も町と共有化を図っていく必要がある。
- 地域住民との協働的な防災学習や地域ボランティア活動を可能な範囲で継続していく必要がある。

【涌谷高校 HP】 [防災のページはコチラ](#) [学校防災だより「つなぐ」バックナンバーはコチラ](#)